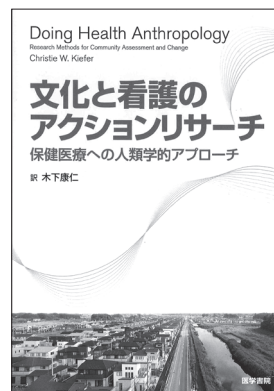


『文化と看護のアクションリサーチ ——保健医療の人類学的アプローチ』 看護の真のニーズに迫る ために有効なアクション リサーチの薦め

著：Christie W. Kiefer／訳：木下康仁／定価 4,200 円(本体 4,000 円 + 税 5%)
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



アクションリサーチとは、目標をフィールドである地域の人々の手で設定し、生み出す結果は地域にとって最も適した形で活用できるように提供される研究手法である。研究者の役割は、地域住民が個々の持つ問題を意識化できるように支援し、自治体や行政担当者への通訳者としての役割を担うことである。医療従事者は、各々の領域における専門的な知識により地域住民の生活をコントロールし、地域の自己効力感を損ね、エンパワメントのプロセスを阻害しかねない立場である。自然主義的調査に比べると長い時間がかかり、コミュニティ内部等での対立など予期せぬ問題が生じることも考えられる。しかし、地域住民と調査者相互の信頼と連帯感を育み、パートナーシップを形成する方法としては非常に有効なリサーチと考える。アクションリサーチを通じて、人々が自ら問題を顕在化させ、行為の結果を理解する思考や行動の仕方を学習し、より解決を探究するプロセスの継続へ導いてゆくことができる手法として、看護における教育や研究に有用であろう。

なお“人類学モデル”とは、既知の事実から因果関係を引き出す“疾病モデル”とは違い、文化、環境、教育、治安、経済政策など社会的視座に立ち、総合した影響関係を明らかにすると筆者は述べている。人々が自身の健康状態を理解し対処できるかは、必要とする保健医療サービスの種類と

の関連がある。

私たちは、人々の住む地域において、健康問題に影響を及ぼしていると思われる社会的、文化的、歴史的、環境的要因の特性を十分に認識したうえで関わる必要があるのである。また、人類学に基づいた研究方法である自然主義的研究は、1つの理論が支配してしまう実証主義に基づく実験科学的理論の研究とは違い、経験に基づく「意味づけ」とデータを解釈するうえで重要である「パターンの一貫性」が利点であるとしている。自然主義的理論に基づき研究を進めることは、複雑な人間の社会システムにおいて、解決すべき問題を的確に理解したうえで、段階的に明らかにする研究方法なのである。「正しいものは一つ」と考える実証主義的アプローチに比べ自然主義的アプローチによる研究は「物事をみる正しい方法はいろいろある」と考える。つまり「問題を解決する方法は複数ある」とするからである。調査者がコミュニティに深く関わり、常時観察した内容を考察することにより、調査方法や結論の修正が可能となるこうした研究方法においては、妥当性と信頼性は実験的科学的方法と同様に保たれるであろう。

本書は、個々の健康状態に合わせ、環境や社会に働きかけ最適な状態を維持できるような援助が“看護”であるということを再認識する機会を与えてくれる貴重な1冊である。